

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和8年第I四半期（1～3月）

設備投資：ほぼ横ばいで推移 **資金繰り：やや悪化**
採算状況：わずかに悪化 **雇用人員：わずかに不足感が強まる**

来期（令和8年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.7%となり、やや上昇する見通しとなった。

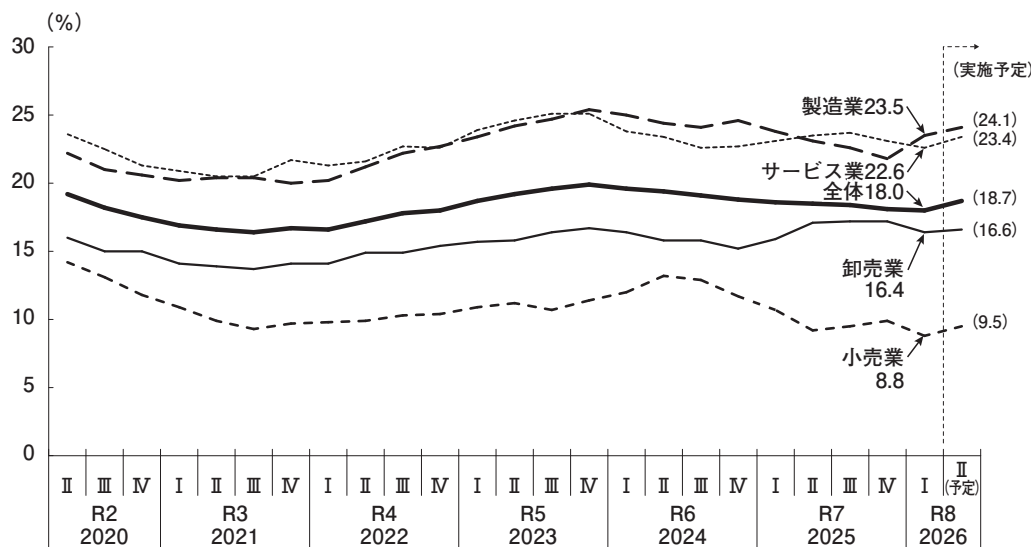
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べてサービス業 23.4%は上昇、小売業 9.5%と製造業 24.1%はともにやや上昇が見込まれる。

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和8年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.0%となり、前期（令和7年10～12月）の18.1%からほぼ横ばいで推移した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は小売業 8.8%（前期 9.9%）と卸売業 16.4%（同17.2%）はともに低下、サービス業 22.6%（同23.1%）はやや低下した。一方、製造業 23.5%（同21.8%）は上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 — 後方4四半期移動平均 —

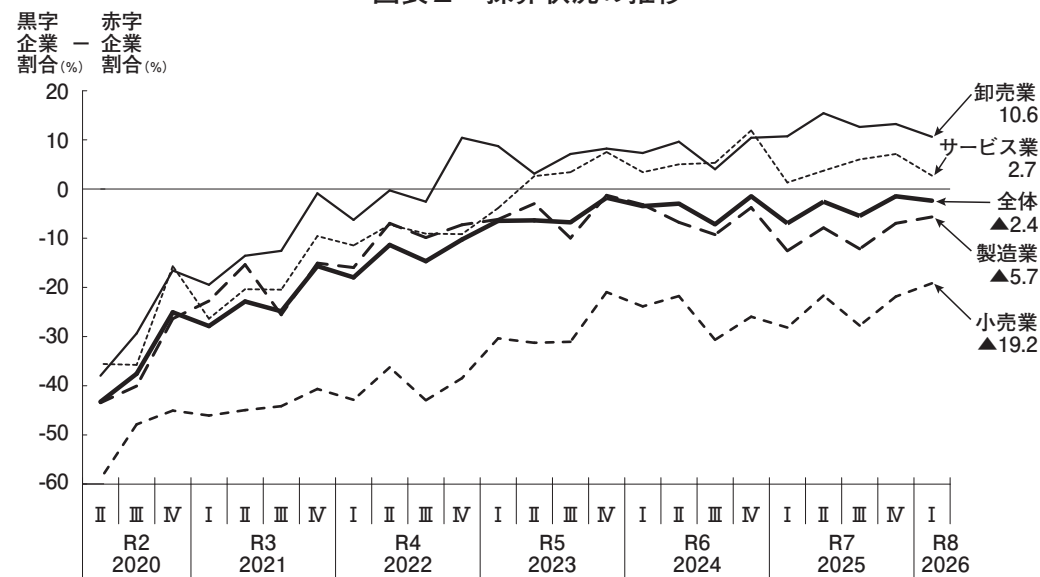


■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲2.4（前期▲1.5）となり、0.9ポイント減少しわずかに悪化した。

業種別にみると、サービス業 2.7（同7.1）は4.4ポイント減少し悪化、卸売業 10.6（同13.2）は2.6ポイント減少しやや悪化した。一方、小売業▲19.2（同▲21.9）は2.7ポイント増加、製造業▲5.7（同▲7.0）は1.3ポイント増加しともにやや改善した。

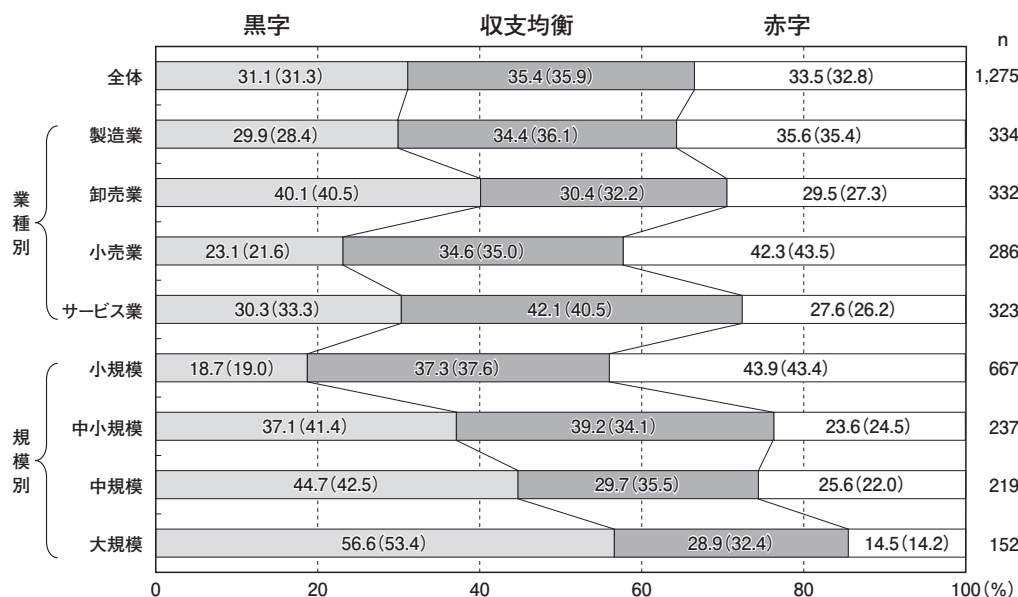
図表2 採算状況の推移



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 56.6%（同 53.4%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期 (令和7年10~12月) の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

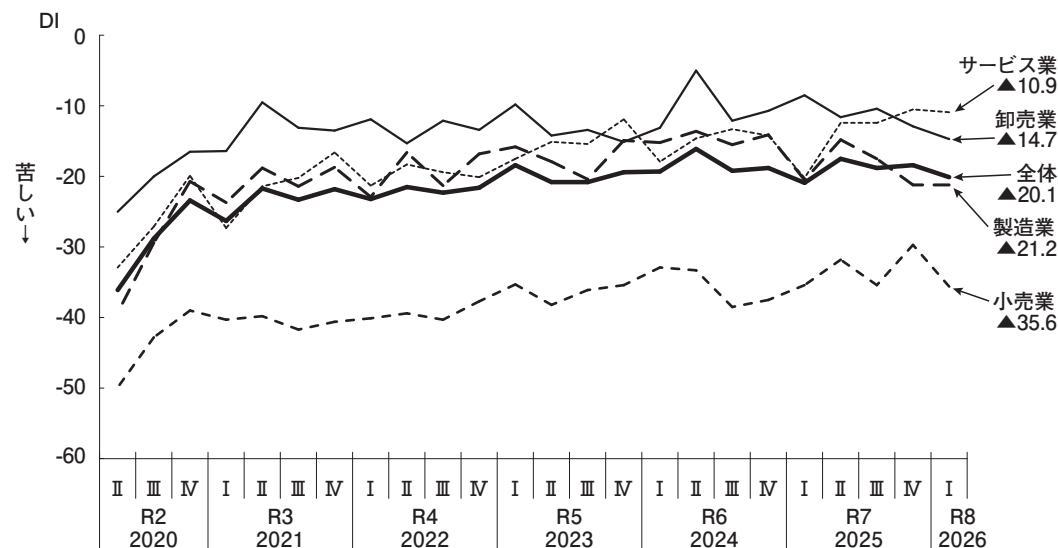
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）でみると、全体では▲20.1（前期▲18.4）となり、1.7ポイント減少しやや悪化した。

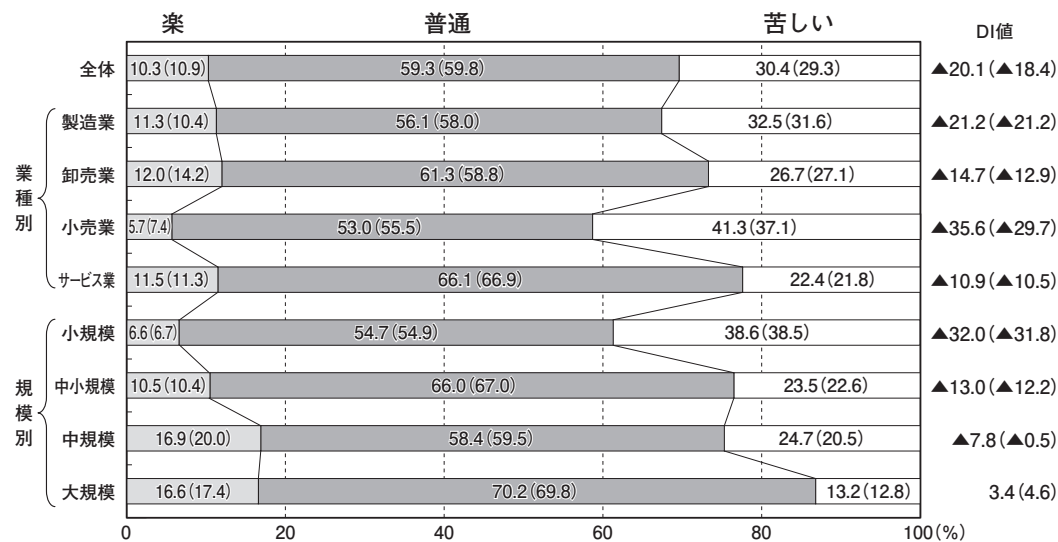
業種別にDI値をみると、小売業▲35.6（同▲29.7）は 5.9ポイント減少し大幅に悪化、卸売業▲14.7（同▲12.9）は 1.8ポイント減少しやや悪化した。サービス業▲10.9（同▲10.5）はほぼ横ばい、製造業▲21.2（同▲21.2）は横ばいで推移した。

規模別にDI値をみると、中規模▲7.8（同▲0.5）は 7.3ポイント減少し大幅に悪化、大規模 3.4（同4.6）は 1.2ポイント減少しやや悪化、中小規模▲13.0（同▲12.2）は 0.8ポイント減少しわずかに悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

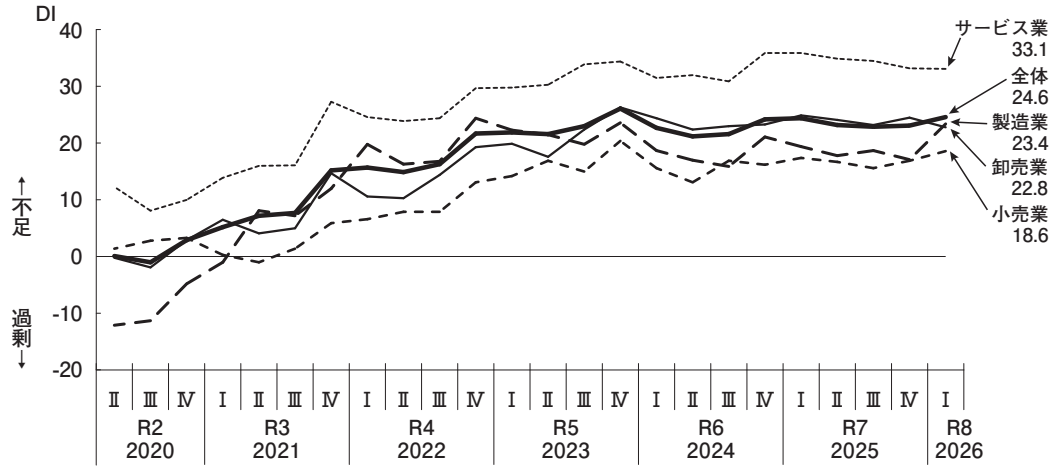


注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期 (令和7年10~12月) の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では 24.6（前期 23.1）と 1.5ポイント増加しわずかに不足感が強まった。

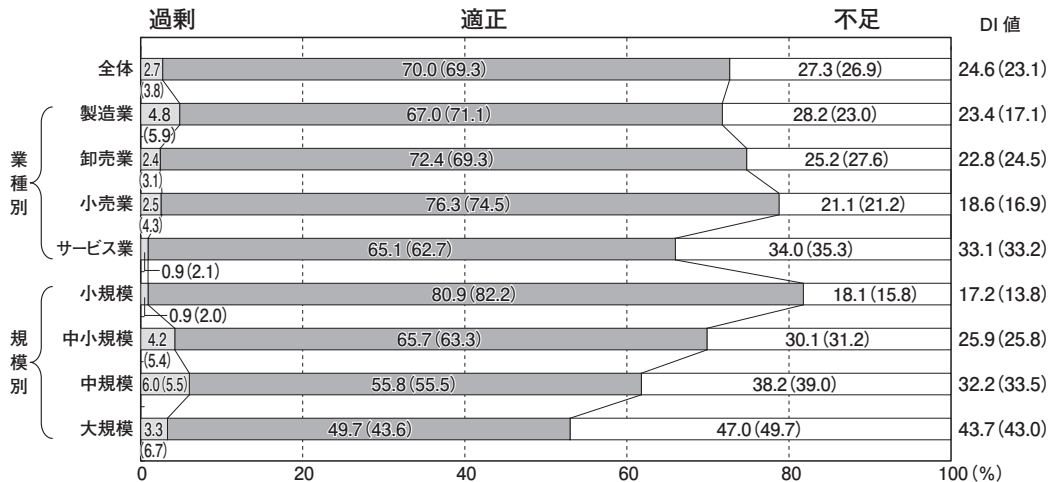
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、製造業 23.4（同17.1）は 6.3ポイント増加し大幅に上昇、小売業 18.6（同16.9）は 1.7ポイント増加しわずかに上昇した。一方、卸売業 22.8（同 24.5）は 1.7ポイント減少しわずかに低下した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 43.7（同 43.0）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期（令和7年10～12月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。